

第2部

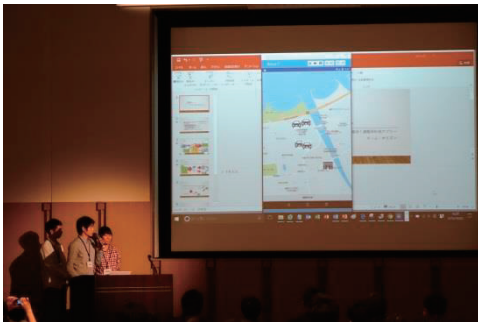
福岡市の新しい取り組み

2 ICTの活用

ICTを活用して課題解決を図る「BOUSAI×TECH」の取り組みを開始、民間企業のアイデアを活かして防災減災アプリを開発するプロジェクトを行った。ここで最優秀賞を受賞した「平時から利用される地域コミュニティ防災アプリ」の開発に向けた取り組みを進めている。



【コンテストでの開発風景】



【作品発表】



【最優秀賞・平時から利用される地域コミュニティ防災アプリ】

3 市民や企業などとの共働

平成28年市民総合防災訓練に、間仕切り設置や段ボールのベッド製作などを取り入れた受援訓練を実施した。

また、避難所運営には女性の視点が欠かない上、子どもや女性、高齢者に物資が行き届かないとか、プライバシーの配慮などの面での課題が明らかになったことから、様々な人に配慮した避難所運営体制の構築を目指して、地域において避難所運営ワークショップを行う予定である。

さらに、専門的な知識を有した人材を活用し、避難所運営をサポートするエキスパートの養成も行うこととしている。



【段ボールベッド製作の様子】



【地域で避難所運営ワークショップを開催】

4 広域応援体制の構築

福岡市では、福岡市長が提案して設置が承認された九州市長会防災部会の事務局を設置し、新たな相互支援体制の検討を進めている。

国や県による広域支援については、その体制を本格化させるまでの間に一定の期間が必要になることから、広域支援が本格化するまでの期間について、実行部隊を持つ基礎自治体の力で支援する体制を構築することとした。

また、熊本地震で広域支援を担った九州地方知事会とも連携し、双方の強みを活かして迅速かつ切れ目のない被災地支援を実施することで確認・合意した。



【第119回九州市長会
総会の様子【防災部会設置承認】】



【平成29年4月7日九州市長会と九州地方知事会との連携に関する合同記者会見】

